

草を褥しとねに木の根を枕、 花と恋して九十年。

「日本植物分類学の父、牧野富太郎博士の言葉」

日本植物分類学の父、牧野富太郎氏が1916年に「植物研究雑誌」を創刊してから100年が経ちました。「植物を愛し、その研究と普及に一生を捧げた氏の想いがつまった研究雑誌が一〇〇年の時を経て今なお隔月発行され、世界中の植物分類学と生薬学の研究者にとって憧れの存在であり続けていることに改めて驚かされます。

ツムラの創業者、津村重舎も、牧野富太郎氏から多くを学び、植物の研究にのめり込んだ一人でした。

1924年、津村重舎は薬用植物の力を通して人々の健康に貢献することを願い、生薬・漢方薬を科学的に研究する

「津村研究所」(現ツムラ研究所)と薬用植物園を設立しました。

そして1926年、牧野富太郎氏が主宰していた「植物研究雑誌」の発行に本格的に関わるようになり、たくさんの方を学びました。

植物分類学と生薬学は、高品質な漢方薬を人々に提供し続ける上で、安全で正しいものを見極めるために

必要な地固のようなものであり、不可欠な学問です。

日本の植物分類学と生薬学とを結び付けている

この研究雑誌がなければ、今のツムラはありません。

牧野富太郎氏をはじめ、「植物研究雑誌」を支えて来られたすべての方々に心から感謝します。

「草を褥しとねに木の根を枕、花と恋して九十年。」牧野富太郎氏の言葉にも込められた、すべての植物に注がれた愛情と情熱。

氏は、世界的権威を持つ研究者にもアマチュアにも分け隔てなく門を開き、すべての人の植物に対する研究と理解を

推進するために「植物研究雑誌」を創刊しました。

その精神は、100年経った今も脈々と受け継がれています。

牧野富太郎氏は、植物学を、津村重舎は、「漢方」を。

広く一般に広めたいという想いは重なるものがありました。

私たちツムラも、この「植物研究雑誌」のように

創始者の想いを忘れることなく、「漢方」の力を必要としているすべての人のために革新し続けたいと願っています。



「植物研究雑誌」創刊号(1916年4月5日発行)
取材・撮影協力 高知県立牧野植物園

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。 